

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901555		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あげぼの		
所在地	旭川市亀吉1条1丁目2番1号 (電話) 0166-21-7010		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北一条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】 (20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤15人 非常勤2人 常勤換算10.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費	16,500円
			暖房費(10月～4月)	6,000円
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月 13日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	63歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、ほのぼの歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな河川敷に面する、閑静な住宅地の中の環境に恵まれたホームである。ホーム内は共用部分が非常に広く、清潔に保たれている。エレベーターが設置され、段差も少なくバリアフリーに配慮した作りとなっている。利用者の希望や嗜好に応じて担当者が希望を実現してあげるような、細かな気配りのある介護がなされている。地域との交流も活発化しており、様々な行事に参加している。また開かれた運営推進会議が開催されている。母体である医療法人のバックアップが手厚く、医療連携、社員教育、委員会(感染症、安全、接遇、など)制度などを充実させている。職員同士の人間関係も良好であり、利用者とともに明るい雰囲気を作っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目については、職員とともに十分な検討を行ない改善されており、今後のケアサービスに活かす努力が続けられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は職員全員が理解しており、今回も全員が参加して自己評価に取り組んでいる。今後は、外部評価結果も含めて検討が計画されており、運営推進会議の中でも報告が予定されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者・家族・町内会長、町内住民・法人相談員、職員などを構成員とし3ヵ月に1度開催している。会議においては活動報告や内容説明、意見交換も行ない運営に活かされている。開設当初より町内の協力関係が構築されており、ラジオ体操、清掃作業、廃品回収、盆踊りなど多様な係わりで、利用者はこの地域で馴染んで生活に溶け込んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望などを伝えられるような雰囲気作りを努めている。要望内容については直ちに検討し、希望に沿った対応が行なわれている。請求書の発送とともに、定期発行しているホーム便り「ほのぼの」や毎月の手紙により、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、家族の来訪時に職員は、日常の様子や受診後の報告・経過について細かく伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員全員が地域に根ざすことの大切さを認識しており、地域に馴染める生活作りに努めている。町内会に加入する事で積極的に行事に参加したり、回覧板などで地域の情報収集を行ない、利用者のニーズに合わせた催事に参加しています。町内会長の協力もいただき、地域の関係・協力体制も構築されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念をホーム内の要所に掲げ、年度ごとに職員と一緒に話し合った各ユニットの目標が別に作られている。注釈には地域とのつながりを大切にする内容も含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「日々利用者様の自立を目指し、理解・協力しながらサービスの向上を目指します」の理念と各ユニットの目標を毎日唱和することで、常に確認し利用者本位のケアが実践出来るように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員全員が地域に根ざすことの大切さを認識しており、地域に馴染める生活作りに努めている。町内会に加入する事で、積極的に行事に参加したり、回覧板などで地域の情報収集を行ない、利用者のニーズに合わせた催事に参加している。町内会長の協力もいただき、地域の関係・協力体制も構築されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員全員が理解しており、全員が参加して自己評価に取り組んでいる。前回の改善項目については、職員とともに十分な検討が行なわれ、その後のケアサービスに活かす努力がなされている。		

旭川市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者・家族・町内会長、町内住民・法人相談員、職員などを構成員とし3ヵ月に1度開催している。会議においては活動報告や内容説明、意見交換も行い運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には疑問点について、問い合わせを行ったり、地域での各種制度の説明会開催に協力をいただいたり、ホームにも来ていただいている。市主催の研修会にも積極的に参加し、サービスの質の向上を目指し、係わりを大切にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書とともに、定期発行しているホーム便り「ほのぼの」や毎月手紙を送付し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、家族の来訪時に職員は、日常の様子や受診後の報告・経過について細かく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望などを伝えられるような雰囲気作りに努めている。要望内容については直ちに検討し、希望に沿った対応が行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人間での異動、職員の離職は最小限に抑えるよう努力している。交代する場合は、レクリエーションや日常生活の中で、利用者顔馴染みになるよう工夫し、影響を防ぐよう配慮している。		

旭川市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、運営法人でも年次計画の中に研修予定が盛り込まれ、各種委員会の設置もある。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交代で参加し、参加後も職員間での報告が行なわれ、共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加入し、各種の研修会には積極的に参加し、情報収集を行っている。運営法人間の情報交換やほかの業者間での情報収集も行ない、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者宅の訪問や入院中の利用者・家族と面談し、詳しく説明を行ない、その後ホームに見学に来ていただくようにしている。体験により、職員と顔馴染みになり、ホームの雰囲気馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援が行なわれている。利用者から生活の知恵や料理の味付けや編み物を教わったり、昔話から励まされたりしながら、ともに支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の採用により、入居時には利用者の生活歴などの情報や心身の状況を収集している。入居後も「私の姿と気持ちシート」に職員が感じ取った利用者の本音を書き込み、気持ちに伝えられる実践ケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員は、日々の細かな記録や気付き「私の姿と気持ちシート」などの活用で、利用者一人ひとりを尊重した介護計画が作成出来るように、全員で話し合いが行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行なっている。アセスメント記録、日常経過記録をもとにカンファレンスを行ない検討している。利用者の状態変化に伴い話し合う事で修正し、新たな介護計画を作成し、作成後は利用者、家族に説明を行ない確認されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎やドライブ、買物、講演会や映画観賞、一時帰省など、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また主治医による他科への受診依頼にも適切に対応している。		

旭川市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関へ定期的に同行し、状態の報告、聞き取りを行ない家族に報告している。協力医療機関との提携により、日常的な健康管理が継続して行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた指針が記載されており、家族や職員・医療機関とも方針を共有している。また、関係医療機関と連携し、重度化・終末期への対応が整備されている。見取り対応に関しても積極的に取り組む姿勢が見られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないよう、声かけや対応を心がけている。個人情報各種書類の保管・管理についても適切に対応している。写真の添付や記名などについても同意を受けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、それを強制することなく、職員は一人ひとりのペースを尊重し、趣味や嗜好、生活歴を大切にしながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

旭川市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の献立を基本に利用者の好みや希望を取り入れながら、メニューを作成している。食事の準備・調理・食事・後片付けなども一緒に行ない、ホーム内で収穫された野菜も盛り付けされ、食事が楽しみの一つとなる支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴を基本とし、利用者の希望に応じて、朝夕など自由な時間で、楽しみながら入浴できるよう支援している。必要に応じて、シャワー浴や清拭もさりげない声かけで行なわれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・漬物作りなど、一人ひとりの力を活かした役割をいただき、買物・ドライブ・映画・落語などの支援やケア中の気付きから、趣味や楽しみごとを見つけ気晴らしになるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や日用品の買物・周辺の散歩・映画や落語の鑑賞など、利用者が行きたいと思っている外出支援を積極的に行なっている。また、近隣へのドライブで季節を感じていただける取り組みも行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。センサーにより確認し、利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、利用者の安全面に配慮しながら、一緒に出かけるようにしている。		

旭川市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急マニュアルが整備され、年2回消防署などの協力で訓練を行なっている。2階からの避難も、利用者と一緒に工夫して行ない、災害時の避難対策に努めている。緊急時に地域の協力が得られるような関係作りも取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を一人ひとりについて、記録しており、職員は情報を共有し、体調管理を行なっている。運営法人の管理栄養士による点検も年間を通じて、適宜行なわれている。身体状況や病状に合わせた食事支援も行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的でソファや椅子が多く設置され、利用者は思い思いの場所で過ごせる空間となっている。利用者にとって快適な居場所作りに配慮されている。喫煙場所の確保や消臭、光・温度・湿度なども適宜調節されており、一日を過ごす憩いの場となるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者にとって使い慣れた家具やベット、仏壇が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしている。写真などが飾られ、今までの生活と変わる事なく、精神的負担が軽減できるような配慮がなされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。